

神大3季ぶり頂点



最終週
第2日

院大に勝つて2位を決めた。関東大は3位となった。神大は6月11日開幕ので行われる1回戦で東大と対戦する。神大は8回に政井隆征(4年)が決勝打を放った。工大は3回に一挙6

神奈川大学野球春季リーグ勝敗表(全日程終了)

	神大	工大	関東大	桐蔭大	国大	大商大	勝	敗	点
① 神奈川大	●	●	●	●	●	●	9	2	44
② 神奈川工大	○	●	●	●	●	●	8	4	43
③ 関東学院大	○	○	●	●	●	●	6	4	43
④ 桐蔭横浜大	○	○	○	●	●	●	6	4	31
⑤ 横浜国大	○	○	○	○	●	●	3	8	10
⑥ 横浜商大	○	○	○	○	○	●	0	10	0

※3、4位は昨秋の成績による



新生神奈川大の強さを証明する3季ぶりのリーグ制覇。同点の七回、「中野なら絶対に抑えろ」と(主将)中野とチンの思いを背負ったエースがマウンドに上がった。「勝利の方程式」に打撃が応えて八回に勝ち越し。中野がそのまま最後を締め、歓喜の瞬間が訪れた。

「こんな状況でも諦めずに戦えた」と今季から指揮を執る岸川雄二監督(44)は八回の勝利打は「仲間が与えてくれたチャンス。良い形で中野につなぎたい」という4番政井の意地だった。

【桐蔭横浜大 神奈川大】3季ぶりのリーグ制覇に喜ぶ神奈川大ナイン
【関東学院大ナイン】(花輪 写真)

新生チーム 強さ証明

開戦前にエース中野を抑えに転向させる決断を下した新指揮官は、中野につなぐまで試合をつる意識を持つことが、チームで戦う気持ちを強めたことと感じている。チームを裏で、中野までつなぐは勝てるといつ気持で戦ってきた。昨季まで指揮した岸川(総監督49)も「岸川くんのイメージする戦いが形になつてた」とたたえる。

春の頂点は年ぶり。目指すのは14年連続優勝。15年4強とエース浜口(現横浜DeNA)を擁しても届かなかった全日本選手権制覇だ。

3年前にベンチで悔しさを味わった夏井を先頭に、「背に前を向き続け、思い切つて戦つて」を神宮でも頂をつかみ取りに行動。(矢部 真太)

得点して逆転した。1部6位の横浜商大と2部1位の東京工芸大の入れ替わり戦は5月26日から神奈川工大K.A.ナースタジアムで行われる。

◇優勝(神奈川大) 00200100045
◇2位(横浜商大) 00000000045

投手陣不調悔やむ
①：最終節は2連敗で4位に終わった桐蔭横浜大の斎藤監督は「投手陣がもう少しふんばってほしい」と悔やむ。

先発したエース三浦が五回途中3失点で降板し、開幕前に肘を痛めて調子を戻せず、するすくず引きつ



【関東学院大 神奈川工大】3回表神奈川工大2死満塁、久保が中前に勝ち越しの適時打を放つ

たと持味の制球力を欠いた。主将千葉も「秋は挑むの気持ちで戦いたい」と戦意を燃やした。

◇優勝(神奈川大) 013000000046
◇2位(横浜商大) 00000000046

足さった。

工大、2季連続2位
①：神奈川工大が関東学院大に連勝し、初の2季連続の2位。春の2位は15年ぶりで新田監督は「優勝には届かなかったが、投手を支える打線が作れた」と満足を表した。

夏井(神大) MVP

神奈川大学野球春季リーグは20日、全日程を終了し、最優秀選手に神奈川大の夏井隆吉主将(4年)が選ばれた。

表彰選手は次の通り。

◇1部(最優秀選手) 夏井隆吉(内野手・神大4年)
◇2部(ベストプレイヤー) 菊門裕介(捕手・商大3年)

フレッシュマン MVP

春のリーグ全日程終了

フレッシュマン MVP 投手・工大1年 須永啓(桐蔭大4年)

打率ベスト① 高橋千仁(国大4年) 4割5分
2部① 関東大2年 4割4分
3部① 渡部健人(桐蔭大2年) 4割3分
4部① 4割2分

【打点王】長崎亮(工大3年) 13打点
【ベストナイン】▽投手 中野廉仁(神大4年)▽捕手 高橋千仁(国大4年)▽一塁手 渡部健人(桐蔭大2年)▽二塁手 嶋田大(工大3年)▽三塁手 藤田隆久(工大3年)▽遊撃手 江崎大(神大4年)

最優秀投手

▽外野手 小村龍輝(神大2年) 太田丈(桐蔭大3年) 関東大2年
▽指名打者 政井隆征(神大4年)
◇2部
【最優秀打者】①東京工芸大9勝1敗、勝ち点4の鶴見大7勝3敗、3割3分
2部① 3割4分 横浜市大6勝5敗、3割4分 田園市大2勝9敗、1割6分 防衛大2勝10敗0
【最優秀選手】山田将矢(投手・工大4年)
【敢闘賞】代田源輔(投手・関大2年)
【首位打者】若菜生(捕手・3年) 4割3分 8厘
【打点王】下野亮斗(松山大学) 16打点
【最優秀投手】菅原成成(関大3年)